

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第71号
高橋誠一先生追悼特集号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

追悼 高橋誠一先生

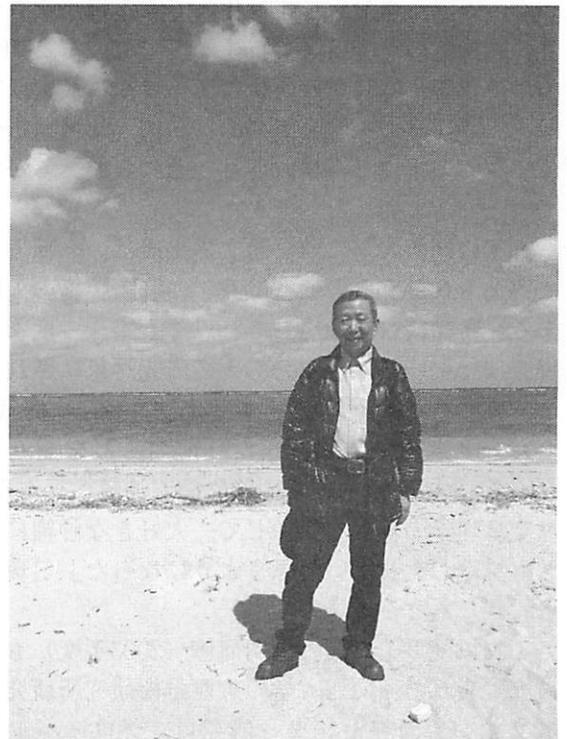
野間晴雄

2014年2月11日、建国記念の日、高橋誠一先生が肝不全のため、橿原市にある奈良県立医大附属病院で逝去された。享年68歳。前年、関西大学を退職され名誉教授とまではいたが、その後も特別契約教授として1年次生から大学院博士後期課程まで従来と変わらず授業を担当されていた。文字どおり現役・現職、途半ばの早世であった。

高橋先生は終戦の年（1945年）奈良市に生を享け、奈良学芸大学附属中学校、奈良女子大学文学部附属高校を経て、65年に京都大学文学部に進学された。大学紛争のただ中で口頭試問が予備校で行われた時代である。先生は中学生の頃から大和歴史館（現・橿原考古学研究所）に出入りしていた早熟の考古少年であった。その恩師が伊達宗泰先生（花園大学名誉教授）であり、生涯、勿頸の交わりをもつことになる千田稔先生（国際日本文化研究センター名誉教授）との接点もここにある。

卒業後は大学院に進まれ、博士課程中退で水津一朗教授が主宰する京都大学文学部地理学講座の助手になられた。その後、76年に滋賀大学教育学部に講師で着任、助教授・教授と昇進し17年間在職された。93年には、矢守一彦教授死去による歴史地理学分野の後任として、関西大学文学部に移られた。爾後19年間、学部1年から博士後期課程までの教育と研究に携わってこられた。

私は学部3年のときに先生から地理学実習を教わり、滋賀大学で10年、関西大学で12年間同僚であった。しかも野外歴史地理学研究会（FHG）等を通じて、学部1年次からのつきあいだから、その知遇は40年を超える。私にとってまさに地理学入門初期の恩師・相談相手であり、教員としての同志であった。滋賀大学では、前半は宮畑巳年生先生や小林健太郎先生（いずれも故人）、宮畑先生退官後は小林・高橋両先生と私との3人で、滋賀県内で卒業生も参加し



ての実習調査を毎年夏休みに行ってきた。その成果を先生は大学紀要に着実にまとめていかれた。

共通点は3人とも酒豪であったこと。高橋先生はビールのみ、小林先生は日本酒党、私は洋酒も含め何でもありだが、卒論の共通ゼミや教授会のあとなど、石山や京都駅前の居酒屋・ビアホールで毎週一緒に飲み、スナックのカラオケで放吟した回数は数知れない。終電車がなくなり、先生の自宅の登美ヶ丘経由で枚方の拙宅までタクシーで帰ったことも年に一度ならずあった。私が奈良女子大学に在職していた94年、JICA専門家として家族5人で1年半バングラデシュに赴任する日、早朝に伊丹空港まで見送りに来ていただいた思い出は妻と私の大事な宝物である。

先生の研究分野は、東アジアを視野に入れた古代日本の都市とその周辺事象の歴史地理学的研究と集約できる。ただその道程には、1つの

Contents

- 高橋誠一先生
追悼特集号
Page 1-2
追悼 高橋誠一先生
野間晴雄
- Page 3-10
高橋誠一先生
～追悼の辞～
教員・卒業生・在学生
- Page 11
プエルタ・オサリオだより
セビーリヤ・オレンジ
街路樹のもとで
野間晴雄
- Page 12
バス1日巡検報告
雨男・雨女はどこに？
谷口 萌
- 今後の研究会行事
- Page 13
卒業論文・修士論文一覧
(2014年3月卒業・修了生)
- 教室だより
- Page 14
随想
考古地理学と
2人の高橋先生
水田義一
- Page 11-13
2014年度
新入会員より

大きな転換点がある。北九州から瀬戸内の古代山城を卒論に、修論では熱ルミネッセンス法なども駆使され古代手工業を扱われた。学部時代から恩師である藤岡謙二郎先生の共同調査や発掘調査に参加され、奥尻島、佐渡、江川の歴史地理学調査を行い、洛西ニュータウンの造成前調査では奥様を「発掘」された。このほか近畿各地の市史の執筆や大学・中学教科書も執筆されている。

先生の研究手法は、前述の滋賀大の実習調査で象徴されるように、測量や地籍図・大縮尺地図・空中写真等による異方位/不定形条里地割検出からの古代灌漑域推定など、史料よりも、もの（遺跡・遺物）の立地、現景観や歴史景観の復原、計測に重きを置いたものである。しかも、周縁から対象を相対化してみる視点をもつ。この2つは先生の研究遍歴で首尾一貫している。80～90年代前半の時期には、埋蔵文化財関係者や古代史研究者らと韓国、北朝鮮、中国を集中的に訪問、都城・古代史跡を東アジアの視点で再検討され、それらすべてが学位論文の糧となっていた。

95年に関西大学に学位論文提出後は、一転、琉球研究に邁進される。その転機は98年の肝臓腫瘍の入院治療である。新婚旅行も沖縄、それ以降も家族で度々訪れた沖縄を、秘蔵っ子にせず、あえて研究対象にされることになった。その経緯をこう書かれている。「病気をして、命に限りがあるという当たり前のことを噛みしめるに至った。退院したら太陽の降り注ぐ沖縄へ行こうと願い、歴史地理学の経験を生かして、大好きな沖縄に多少なりとも恩返しをしたいと思うようになった」（『琉球の都市と村落』あとがき）。

これ以降、1年間の国内研修（2003年度）も沖縄調査に充てられた。関西大学の東西学術研究所研究員、アジア文化交流研究センター研究員、グローバルCOEプログラム・東アジア文化交渉学教育研究拠点事業推進担当者、アジア文化研究センター学内研究員として、奄美・八重山も含んだ広義の琉球で、古地図、住宅地図、地籍図、石敢當や天妃信仰の分布図などを駆使された都市・集落研究に没入されていく。現地でも知り合った人との出会いを何よりも大切にされた。与論では地元役場職員との共著で古い琉球の原像を指摘され、今帰仁村今泊の実習調査の成果をカラーの「今帰仁城周辺マップ」として地元に戻元された。

その転機から16年、数多くの業績は2冊の学術書となったが、病魔は徐々に先生の体をむしばんでいった。ただ、昨年10月の入院でも、携帯メールからは病室で手持ちぶさたな様子がうかがわれ、次年度のシラバスも準備され、あとに残した演習指導学生や大学院生のことを案じられていた。それが今年2月になって容体が急変し、帰らぬ人となってしまった。

日本古代史の全国区であった生誕の地奈良をこよなく愛し、「キャピタルボーイ」を自認していた先生にとって、邪馬台国は当然大和の地であった。それが予期せぬ縁で

はあったが、滋賀と沖縄を第二・第三の故郷とされるようになる。「三都物語」はまだこれから大きな果実を結ぶはずであった。権威になびくことなく、大学、学生、家族のために、生涯現役を貫かれた見事な潔い人生であった。研究室の机の上には、高解像度の飛鳥の衛星写真に地割をトレースした未完の作業図が残されていた。
(本学教授)

略歴と主要業績

生年 1945年11月23日奈良市に生まれる

学歴 奈良女子大学文学部附属高等学校
(1961.4～1964.3)

京都大学文学部・史学科人文地理学専攻
(1965.4～1969.3)

京都大学大学院文学研究科・修士課程地理学専攻
(1969.4～1971.3)

京都大学大学院文学研究科・博士課程地理学専攻
(1971.3～1973.10) 中退

職歴 京都大学文学部・助手 (1973.11～1976.3)
滋賀大学教育学部・講師/助教授/教授
(1976.4～1993.3)

関西大学文学部・教授 (1993.4～2014.2.11)
*2013年4月に名誉教授

学位 「日本古代都市研究」1995.9.30 博士(文学) 関西大学

研究業績 (抜粋)

『日本古代都市研究』古今書院, 1994

『琉球の都市と村落』関西大学出版部, 2003 [人文地理学会第5回学会賞受賞]

『新修 茨木市史 第8巻 史料編 地理』茨木市, 2004 [責任編集]

『与論島 琉球の原風景が残る島』ナカニシヤ出版, 2005 [竹盛窪との共著]

『東アジア都城紀行』ナカニシヤ出版, 2007

『日本と琉球の歴史景観と地理思想』関西大学出版部, 2012

『古代手工業の歴史地理学的研究』, 史林, 第54巻第5号, 1971

『古代山城の歴史地理』, 人文地理, 第24巻第5号, 1972

『滋賀県における大規模条里縁辺部の条里型地割二例』, 滋賀大学教育学部研究紀要 (人文科学・社会科学・教育科学), 第38号, 1988

『大和の前方後円墳に関する計数的分析』, ジオグラフィカ センリガオカ, 第3号, 1997

『首里城下町の都市計画とその基本理念』, 関西大学東西学術研究所紀要, 第34輯, 2001

『風水の城下町 琉球の首里』, まほら, 第78号 (特集 城下町) 2014 [遺稿]

高橋誠一先生 — 追悼の辞 —

奈良のシティボーイ

木庭元晴

会議室に入って汗が噴き出す、そういう季節になった。この時期、毎年、丸1日の会議をほぼ月2回、実施してきた。この席では高橋先生がいつもおられた。ふと、高橋先生に話しかけようとしてしまう。この会議は長丁場で雑談もよくした。こばさん、この眼鏡なあ、昨日買ったんや、と、金色のケースに入った金色縁の眼鏡を見せられる。こばさん、このプレザーなあ。関大から千里山駅の途中の古びた洋服屋に入って雑談して帰りに買われたらしい。家の庭に野良猫が入って子供を5匹だったか産んで、捨てる捨てないで、奥様と二人のお嬢さんとやり合った、という話し。

初代iPadを木庭は発売と同時に手に入れたが高橋先生もタッチの差で買っておられて、得意のスケッチをこれで描くんだ、良いソフトが無いかとのことでご紹介した。ぼくは一応使っては見たが放置。高橋先生は急速に自分のものにされて、なかなか静かで魅力ある風景スケッチを描いておられた。その一枚を奥様が絵はがきにされて、通夜や告別式に出席した学生にボールペンと共に贈られた。学生の高い評価を得ていた。

1998年のご入院後、授かった命だとして、沖縄を第二のライフワークにするとおっしゃった。ご家族とともに何度か沖縄に行かれた。娘さんは蛇皮線に魅せられて沖縄で自らの愛機を調達された。そのことを嬉しそうに話しておられた。首里城下町の石敢當の調査をアシストバイクで回られたのが最初の本格的調査だったか。沖縄や奄美に足繁く通われて次々と論文にされ本にされた。与論では地元の方と共著で出版された。

地理学実習旅行は従来、近畿近辺で実施する傾向があったが、高橋先生が関大に来られて村上雅康先生の郷里である四国愛媛県五十崎町を皮切りに、沖縄や与論にもでかけるようになった。

琉球列島はぼくが1990年ぐらまでは主要フィールドで、国土庁の土地分類図も担当していたこともあって、高橋先生の調査域の地形や地質についてよく私の助言を求めていただいた。琉球列島の人々や暮らしについてもよく雑談した。沖縄が高橋先生との深い繋がりの一つであったと思う。

昨年度のはじめ、高橋先生からIKONOS衛星画像を預かった。その数日後、分析してお渡しした。その範囲は奈良盆地南縁の大和三山つまりかつての藤原京の主部で

あった。衛星写真を分析することでかつての条里地割を復元したいということであった。残念ながらそれを見ることはできなかった。琉球の研究は一段落したから、若い頃から取り組んだ奈良の研究をするんだと決意表明された。考古学の網干善教、歴史地理学の高橋誠一、いずれも奈良が生んだ研究者である。奈良に生まれ育った者への南都の魔力を感じた次第である。

恐縮だが姉が昨年未に逝った。そして高橋先生がその3カ月後に亡くなった。ぼくは家族でも職場でも年長になってしまった。後が無い。切羽詰まった。何とか良い仕事を残したいと思う。高橋先生の琉球研究にあたるものが欲しい。なお、冒頭のタイトルは高橋先生の口癖の一つである。
(本学教授)

高橋先生・高橋さんのこと

伊東 理

高橋先生の今回のご入院も、ほどなくご退院されるものと思っておりましたが、遂にお別れの日がきてしまいました。それにしても先生のご逝去はあまりにも早すぎる。無念である。

私にとって高橋先生は大学で5学年上の身近な先輩であり、また先生が関西大学に来られて5年後には当方も関大に着任しました。私の歩みは先生に似ているようですが、何事も先輩には到底及びません。高橋先生にはしめっばい話は似合わないの、最初の出会いなどについて書くことにします。

高橋さんに初めてお会いしたのは、大学のF先生に進められて参加した京都洛西ニュータウンでの発掘調査で、高橋さんが大学院生、私が2回生の時でした。その時の高橋さんはいくつかの発掘場所の一つを担当された現場監督で、私は偶然高橋さんのもとで発掘を手伝うことになりました。監督のチームの人たちへの気配りは見事で、初参加の私には随分と親切にしてもらいました。また、年配の先生方などにも平気で大胆な冗談など言われるのには驚きました。そして、二人の年齢が五歳しか違わないことを知り、世の中にはすごい人もいるものだ、と痛感したのが、高橋さんとの出会いでした。

高橋先生の恩師、F先生はいろんな方々の人物評を言われる大先生で、学生をめったに褒めない人でしたが、高橋さんは例外でした。授業でお聞きしたF先生の高橋評は「高橋は偉い。頭もよいし、何事もきっちりとし、心配りも御上手もできる。それに原稿の締め切りは見事

に守りよる」と高評価でした。事実、高橋先生が、原稿等の締め切りを遅れられたことなど、聞いたことはありません。

関大で一緒するようになって、高橋先生は生活スタイル、身だしなみや服装など、実に几帳面にきっちりとされることを再認識しました。着任早々、私は先輩から「ネクタイをして、授業をすべきである」と言われました。しばし実行してみたのですが、長続きしませんでした。しかし高橋先生の場合は、最後の授業までネクタイ着用で通されました。何事に対しても自分のスタイルをきっちりと確立され、それを努力して守り通されてきた高橋先生だからこそ、おできになったことの一例です。

また、高橋さんはおしゃれなお方で、身の回り品にもご関心がおありになったのか、私がめずらしく家内の選んだ値段の高い服やちょっとした腕時計を着用した日には、必ずといってよいほどに、何らかのお褒めの言葉をいただきました。御蔭様で私の服装に関しては、家内の着せ替え人形になるのが一番であることに気づかされませんが、素直に実行するに至っていません。先日奥様から、形見分けのお品として、先生ご愛用の高級なマフラーやネクタイをいただきました。今後服装を直すときには、できるだけ家内と相談して、先生ご愛用のお品を大いに活用させて頂くこととしたいと思っています。

振り返ると、学生時代にも、そして職場でも、高橋さんとご一緒できた時期があったことは、私の人生にとって大変幸運なことでした。深謝申し上げるとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。(本学教授)

授かった宝玉(ドラゴンボール)

中村雅俊

高橋誠一先生から、沖縄・那覇市のバスターミナルの一角に「ドラゴンボール」があると、教えていただいたが、まだ見つけられずにいる。しかし、先生からは「ドラゴンボール」にまさる、いくつもの宝玉を授かった。

わたしは小さいころから「地理」が大好きで、関西大学文学部の「史学科地理学専修」で学んだのち、3年前に退職するまで、大阪市の高校で地理の教員を勤めた。ずっと、大学院でさらに学びたいと願っていたので、関西大学大学院が社会人入試をはじめた年に、高橋先生の歴史地理学のゼミの門を叩いたのが、先生との出会いであった。

土曜日しか大学に通えないわたしのために、ゼミを土曜日にしていただいた。他の授業や会議もない日なので、奈良のご自宅から、わたし一人の一角のゼミのために大学までお越しいただいた。ご指導をいただきながら、夢ですらなかった博士号取得へと導いていただいたのである。

先生に、わたしがいた高校でご講演をお願いしたことがあった。先生はその人文学科の「フィールドワーク」など特色あるカリキュラムに注目され、関西大学への推薦枠についてご尽力をいただいた。その架け橋を歩んだ学生が、学術誌『史泉』に掲載されるほど優秀な卒論をまとめた。先生の蒔かれた種が花開いたのである。

博士論文の執筆では、仕事、家庭それに学問的な困難の重圧で、何度もつぶれそうになった。そんな時には、先生からいただいた、夏川りみの「涙そうそう」のCDを聞いたのである。何十回・・・いや、何百回かも知れないが、この曲を聴くと、高橋先生がそばにいて温かく励ましてくださるのを、感じる事ができた。

先生は、学者として、研究者として、教育者として、最後まで手をぬくことなく全力であたられた。昨年末にいただいたお葉書に、病因もわかったし、治療も順調だとあった。書かれた文字もしっかりしていて、わたしは、すっかり先生がお元気なものと信じていた。「中村くん・・・タバコをやめたから、飛行機でヨーロッパ行けるよ・・・」とおっしゃたことを思い出したりして。だから、石坂さんからの留守電で、先生の訃報に接したとき、あまりの不意打ちに何も考えることができず、ご葬儀に参列することも、どうしてもできなかつた。

少し時間がたって、こうして、先生のことを思い出していると、先生がいまでもすぐそばに、おられるように感じてしまう、「涙そうそう」を聞いたあの時のように。(1973年度卒業)

高橋先生と巡検

渡邊 登

高橋先生とお会いしたのは、大学4年生のときだった。大阪府の教員となってからも各地の巡検で一緒することがあり、関西大学にご着任になられてからはより親近感をおぼえました。

四條畷高校では巡検指導をお願いし、平成7年と8年に奈良市と大和郡山市で教員への指導とともにご案内をお願いしました。阿倍野高校では勉強合宿を飛鳥で開催、先生には飛鳥に関する講演をお願いしました。そこには地理の楽しさを直接生徒に伝えたいとの先生の篤いお気持ちがありました。

昨年、秋の日帰り巡検の案内者が高橋先生であることを知り、久しぶりにお電話しました。その時、休職中であることを知り、いつもお元気な先生がとびっきりしながらも再び巡検でお会いできるものと思っていました。ニュー FHGの会報で先生のご逝去を知り、間違いではないのかと自分の目を疑いました。教員生活の端々でお世話になりました先生のご冥福を心よりお祈りいたします。(1975年度卒業)

最古の恩師をお見送りして

三木理史

書棚を片付けていて滋賀地学研究会編『生きている化石湖』という本に手が止まった。先生の着任より2年ほど前に私は現勤務校に就職したので、関大地理学教室の歴史上で直接の関係は見出せないはずである。しかし、私が関大で初めて接した地理学の先生は、学部ゼミの河野先生でも、院ゼミの末尾先生でも、さらに1年次研究法の橋本先生でもなく、実は当時滋賀大学から一般教育科目「人文地理学」に出講されていた高橋先生であった。授業後の帰路を度々同道し、パイプ煙草を片手にした先生から紹介された一冊が冒頭の本で、ちょうど30年前の春のことである。その後人文地理学会での編集作業や会計書類作成を直接教えて頂いたのも、勤務校で助手を務めていたころは毎週最初にお目に掛かるのも先生であった。おまけに勤務校の学部と大学院で最初に受け持った講義が共に先生のお譲りであった。思えばどれも公的關係ではないが、伏流水のごとく現在の私を支えている。

(1987年度卒業)

直伝のお陰

矢嶋 巖

1980年代後半、火曜日の5限目。第1学舎旧1号館法学部事務室上の教室。高橋誠一先生の般教・人文地理。数十人の学生が熱弁に聞き入る。当時は非常勤講師としてご出講だった。

古代の都城プラン、大阪の繁華街の中心性、時折学生時代の調査シーン(回想)。笑いも欠かさない。地理学は目に見えて具体的で面白いな、そう思わずにはいられなかった、活動映画のような講義。

ある時、同期生が途中退室しようとした。勇気ある行動。高橋先生に呼び止められると、何で?という顔。何を考えているのやとお説教。

時も所も変わって、2010年代前半。勤務先での拙い講義では、学生の失笑は買うが、笑いは難しい。

ある時、途中退室しようとする学生が目にとまる。勇気ある行動。呼び止めると、何で?という顔。それがおかしいとお説教。以後、途中退室が必要な学生は、事前に相談に来るようになった。高橋先生直伝のお陰である。

(1990年度卒業)

心残り

下河敏彦

高橋先生といえば、「人文地理」の名講義を思い出す方も多いでしょう。地理学の動向、諸分野の解説のなか

に織り込まれるユーモアあふれる“脱線話”。毎週楽しみにしていました。そして、伊勢湾台風と水害地形分類図の講義から、自然と社会生活基盤と関わりに興味を持ち、卒論のテーマ、現在の職業にまでつながっています。

謝恩会で卒業生代表として感謝の言葉を述べさせて頂いた際、用意していた原稿を高橋先生がご覧になり、「下河君、大事なことを言い忘れたね。僕が代わりに言うわ」と「彼は言い忘れたが、地理学教室で学んだことを糧に社会に出て活躍するという“花便り”を送ると書いています。彼の言うとおりに地理学教室で学んだことは役に立つはずだから、このような気持ちでみんな頑張り、いい便りがほしい」というようなことを話して頂きました。

心残りはそのお便りができていないことです。高橋先生のご冥福をお祈りします。(1994年度卒業)

「ありふれた無二の経験」

水谷彰伸

高橋先生が赴任されたのは1993年だったが、非常勤講師を長く務められたこともあり、それ以前に巣立った地理学専修生も多数がその醫咳に接したであろう。結局私も唯一の受講経験が赴任前の1990年の、いわゆる「般教」の人文地理である。歴史地理学は勿論ながら商圈や都市システムなど幅広い内容について、多くが知るところの軽妙な話ぶりで解り易く説明して下さった。一般教養科目とはかくあるべしと強く感じる、他のどれと比較しても出色の講義だった。その時のネタの幾つかは拙講義でも参考にしている。着任以降は受講の機会を得なかったものの、卒論で滋賀をフィールドにした私に、滋賀大でのご指導経験を基に様々なアドバイスを下さり、また大学院進学以降は多くの叱咤も頂戴した。高橋先生との公式な接点は上記の講義だけというありふれた関係であるが、関西大歴を通して賜った学恩は血や肉となって、今の私を形づくっている。(1994年度卒業)

道標(みちしるべ)

鈴木応男

3年前、高橋先生から葉書を頂戴し、私の息子の誕生を喜んでいただいた。そこには、いつものように先生のスケッチが添えられ、94930STというサインがあった。私たちが学部3回生の実習調査で明日香村を訪れたとき、その合間にスケッチされたものだった。もう忘れていた記憶が蘇るとともに、先生の私への思いが詰まった葉書に感激した。「一度、ゆっくりと会いましょう。」といただいたが、もう叶うことができず後悔しています。

子どものころから近世城郭が好きだった私は、日本史

専攻を希望して1992年に関西大学へ入学した。当初は地理学には微塵も興味なかったが、一般教養科目の人文地理学の最初の講義から、高橋先生の語りに魅了され続けた。もちろん、講義の回が進むにつれて学問的な興味も強くなり、この後、地理学という道を進むことになる私にとって、先生の講義が最初の道標となった。

時を同じくして出会った先輩から、次年度(93年)より高橋先生が関西大学に赴任されることを知らされたのは、冬になるころだったろうか。この話を聞いて、私は2回生からの地理学専攻を決心した。なお、高橋先生の計報は、この先輩から知らされた。何とも言えない運命を感じる。

高橋先生にご担当いただいた3回生の地理学実習では、明日香村での実地調査をおこなった。歴史地理班の私たちは、日本書紀に登場する運河の痕跡や石垣の調査を行ったが、歴史地理学の調査法もよく分からず、準備の段階から高橋先生には一つ一つ手ほどきしていただいた。この実習で学んだことが大きな道標となり、私は歴史地理学への興味がより一層強くなった。

私が怪我の後遺症に悩まされ、大学院での研究継続が困難になったとき、先生から「少し休んで、また戻っておいで」と声をかけていただいた。このとき地理学の道をあきらめようと思っていた私に、高橋研究室へ戻る「回り道」を示していただいた。この道標により、私は中等教育の現場から地理学を見つめなおすことができるようになった。

先生の言葉は、いつも温かく愛に満ちていました。「できるだけ良いこといっぱい的人生でありますように。」3年前に先生からいただいた葉書にある言葉です。読み返すたびに、感謝の気持ちがこみ上げてきます。ありがとうございます。先生が示された道標のおかげで、私は迷うことなく歩み続けることができ、充実した幸せな日々を過ごしています。(1995年度卒業)

高橋誠一先生から教わったこと

岡本訓明

「おい、岡本君、君なあ…。高橋先生の「君なあ…」という独特の言い回しを思い出すと、今でも背筋がピツとなり、直立不動になってしまう時がある。先生とは、亡くなる1年ほど前、私が研究で調べることがあって関大の図書館へ来た時に、偶然、法文坂で先生と出会って、昼食をご一緒させていただいたのが最後になってしまった。

先生はどのような場面においても、人との交流やつながりをととても大事にされていた。そのことについて私も様々なご指導を賜った。印象に残っているのは、当然のことなのではあるが、調査でお世話になった方々へは必

ずお礼の手紙を書きなさい(しかも手書きで)、ということや常々指導を受けてきたことである。例えば、ある日のゼミで、私が「〇〇へ調査に行って、現地の〇〇博物館の△□先生から×××ということをお教えいただきました」と報告すると、先生からの最初の質問が「お礼の手紙はちゃんと書いたか?」であったこと等々、いかなる場合でも気配りを欠かしてはならないことを教わった。

お礼の手紙もついつい電子メールで済ましてしまいがちであるが、先生の教えに従って、調査でお世話になった方々へは、今でもできる限り手書きでお礼の手紙を書くようにしている。

こうしたところから研究の幅の広がり生まれ、さらには人生が豊かなものになっていくことを先生は説かれていたのだと思う。先生の御著書『東アジア都城紀行』(2007年、ナカニシヤ出版)の最後(215頁)に「現地調査をして、いろんな発見をすることは、なるほどうれしいことである。しかし、それよりも現地の人たちと親しくなることのほうが、もっとも素晴らしいことではないかと思うようになってきた」とあるのは、地理学者としてフィールドワークを積み重ねてきた先生の心の底からの本音であろうと思う。

その他にも先生から教わったことや先生との思い出は語り尽くせないほどある。お酒の席も数えきれないくらいご一緒させていただいた。今でも、ビールを飲みながら南海ホークスについて熱く語る先生のお顔が目に浮かぶ。

これからまだまだ先生に教えていただきたいこともたくさんあった。突然のお別れであったことが残念でならない。

高橋先生、ありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。(1999年度卒業)

高橋先生から頂いたご指導と御縁

胎中啓紀

一般教養の人文地理学概説、当時の担当教授が高橋先生でした。他の一般教養科目では年度後半には出席生徒が減ることもありましたが、先生のこの講義は回を重ねる毎に出席者が増えていたような印象が私にはありました。後日、そのことを先生に話すと「そら、当たり前や。地理学に興味を持つ学生が増える為に、あれは僕がやっているんや～」と得意満面。その効果か、私達96年入学生は地理学専攻者が多く、妻もそんな一人でした…。

先生には在学中の学内でのご指導はもちろん、インカレ出場時には壮行会を企画、卒論指導時にご自宅にまで呼んで頂いての追込み指導、卒業後も発表の機会や、披露宴でのスピーチ、同郷の奈良では様々な方と先生の話題でつながったり、在学中から今に至るまで多くのご指

導とご縁を私達は頂いてきました。急で早すぎるお別れ、残念でありませんが、奈良の空から見守っていただいていることと思います。本当にありがとうございました。

(1999年度卒業)

人生を決定した高橋先生のアドバイス

西岡尚也

私が最初に高橋先生にお会いしたのは大学2～3年のころ、野外歴史地理学研究会の「FHG会報」発送作業が、左京区北白川西平井町の藤岡謙二郎先生ご自宅で行われていた時で、もう35年前になる。しかし、はじめて高橋先生の講演（講義）を聴いたのは、高校教員になった後、IFHG（野外歴史地理学研究所）主催の社会人向け講座が烏丸御池の京都市立勤労会館であった時だったと思う。とにかく話がおもしろく、聴衆を惹き付け「笑わせる」のがうまいと感じた。これは先生のお人柄・人間的な魅力でもあった。

藤岡先生没後しばらくFHGは休止時期があったが、ニュー FHGとして再出発してからも、滋賀県方面巡検では高橋先生の「楽しい」お声が聞けた。藤岡先生が亡くなられて10年目の第12回亀岡盆地巡検の懇親会で、高橋先生から「関大大学院に社会人コースがあり、矢野司郎君（現在京都明徳高校教諭）が来てるので、君もどうや。」と誘われた。

そんなご縁から38歳で「学生」をすることになる。なんとか5年かけて「単位修得」したが、まだ博士論文は提出できていない（先生すみません）。その間「君は研究業績が少ないので自費出版で本（単著）を書くのが良い」と背中を押され「開発教育のすすめ」（1996）を、かもがわ出版から出すことができた。この原稿は高橋先生にチェックしていただいた。

その後、琉球大学の教員公募があったが「年齢40歳程度まで」という条件であった。私は43歳なので無理だと判断したが「43歳は四捨五入したら40やないか、とにかく出さなアカン。」と先生に言われて応募した。その結果幸いにも採用された。この時一番喜んでもらったのは、琉球・沖縄が大好きな高橋先生であった。

私にとって、それまで一度も訪問したことがなく知人のいなかった沖縄県では、高橋先生の「豊富な人脈」に至る所で助けてもらった。2003年7月には琉球大学教育学部へ集中講義に来ていただいた。多くの受講生が「高橋歴史地理学」の講義に魅了され、何人かが卒論を歴史地理テーマで書ききっかけになった。またその中には歴史地理学で大学院に進学し研究者をめざす人もあった。2006年1月には高橋先生のご紹介で知り合った、沖縄県埋蔵文化財センターの山本正昭さん（奈良大・文化財学科出身）と先生と私の3人で首里城正殿裏の発掘現場：

久高島のサンゴが敷き詰められた聖域＝「立ち入り禁止区域」にもご一緒できた。これは今となっては超ラッキーで貴重な体験であった。さらに言えば、現在取り組んでいる「ミャンマーでの学校づくり」も、もし琉球大学時代にミャンマー留学生との出会いがなければ、存在しないプロジェクトである。

お酒好きの先生とは数多く「宴会」の機会があったが「君はもっと教員らしいきちんとした服装をせよ。」とよく注意された。いつも私を叱ってくれた先生が、もうおられないと思うと寂しくてしかたがない。これからは残された人生で、少しでも先生に恩返しができるようにがんばりたいと考えている。高橋誠一先生本当にありがとうございました。

(2000年博士課程後期課程単位取得済退学)

軽快な授業に魅せられて

矢野司郎

先生の奈良大学での日本地誌の授業は大教室で行われていたが、常に学生であふれかえっていた。ご専門の歴史地理の話題を題材にしながら、日本各地の地誌を平易な言葉で論理的な講義はきわめて人気が高かった。藤岡流の早口で機関銃のようにまくしたてられ、あちらこちらに話題がおよぶ講義にならされていた身としては、優しさにあふれて論旨明快の先生の講義はきわめて新鮮であった。特に印象に残るのは、国府と条里の痕跡との関係に関するお話で、その後まもなく同様の内容が『歴史地理プロシーディングス』に発表されたのを拝見したのを覚えている。先生の最新の研究成果を常に披露しながらの講義を学部学生の身でお聞きできたのは貴重であったと思う。

その後、先生は関大で、お亡くなりになるまで、非常に長きにわたってご指導を受けることになるろうとは、まさに神のみぞ知るである。ゼミ生として、まさに不肖の弟子で叱咤激励を受けながらも何せ兼業研究の情けなさでなかなか先生のように続々と論文を書いていく、というわけにはいかない。そして、先生は筆まめな方であった。年賀挨拶は、もちろん、筆者が雑文を進呈すると、毎回、間を置かずに丁寧なお返事をいただいた。ご自身の研究の成果や発掘でおおむね復原案が間違っていないことに安堵したことなど正直な弟子ならではお聞きできるようなお話がもられていた。また、地理教室の行事に参加すると、いつも気さくにお声をかけて下さった。

冒頭の話に戻るが、学内の巡検の時だったと記憶しているが、何かのはずみで、冒頭の学生への授業の評価の仕方に話題が及んだとき、「おおむね、甘かったね。みんな優だったやろ。」と賛同を求められた。思わず、実は偽学生でもぐり込んでいたともいえず。笑ってごまか

してしまったが、先生は私の微妙な笑いをどのように受け取られたであろうか。今はもう聞くこともできない。

(2000年博士課程後期課程単位取得済退学)

黄色のクッション

石坂澄子

高橋ゼミはいつも先生の研究室で授業が行われており、ゼミ生はソファや折り畳み椅子を駆使して席に着き、先生のご指導を受けました。ソファにはいつも黄色のクッションが置かれていて、繊細なパッチワークが施されたそれは、奥様の手作りの品であるとのことでした。

ある時、先生がクッションについて「女の人は器用やなあ。こんな細かいことが出来て。」と仰っていたことがありました。女の人が器用なのではなくて、先生の奥様が器用なんですよと言うと、先生は嬉しそうに笑っていらっしやいました。

先生がお亡くなりになられた後で奥様にお聞きしたところ、あのクッションは先生が関西大学に着任されたお祝いに、奥様がプレゼントされたものであるとのことでした。

沢山の本が置かれていた先生の研究室で、暖かい雰囲気を出していた黄色のクッションを、私はとても懐かしく思い出します。

(2002年博士課程後期課程単位取得済退学)

先生、ありがとうございました

楢谷奈央

また研究室へ遊びにいきます…。これは毎年、高橋誠一先生への年賀状にしたためていた一文です。今年はご報告したいことがあり、まさに会いに行こうと日程を整えつつあった折の訃報でした。本当に残念でありませんが、先生の安らかなお眠りを、心よりお祈りいたします。高橋ゼミ生として在学していた頃、高橋先生は、他の先生方とともに、飲み遊びに、お忙しい中よくお付き合い下さいました。カラオケがお得意で、沖縄の曲をのびやかに熱唱されていたお姿が、目に浮かびます。もちろん、勉強でも大変お世話になりました。卒論が遅々として進まない私を、いつも気にかけて下さり、アドバイスと励ましを何度も頂き、なんとか書き上げることができました(内容はともあれ…)

巡検の時などに、先生は道行く人に、「ちょっとお尋ねしますが…」とよく声をかけられていました。穏やかながら、するすると情報を聞き出されるご姿勢が印象的で、私もその声かけを真似するようになりました。今でも口にする度に、先生を思い出します。

いつも物腰が柔らかく話題も豊富、親しみやすい先生

でした。楽しい学生生活を与えて頂いて、感謝の気持ちでいっぱいです。同窓の仲間とは今でも集まることがありますが、高橋先生がつないで下さったこの友との和を、これからも大事にしていくことで、先生への恩返しができるかな…。と思います。

高橋誠一先生、本当に、ありがとうございました。

(2003年度卒業)

高橋先生との想い出

堀内千加

高橋先生ほど、学生に対して、調査対象に対して深い愛情を注がれた先生はおられないように思います。直接ご指導いただく機会には恵まれませんでしたが、大学の行き帰りにお会いすることが多く色々なこととお話下さいました。調査先での出来事やそこで出会った方のお話、大学での出来事などはもちろんですが、「洗い物の順番で娘におこられた」ことなどご家族のお話をされることも多く、普段大学での先生の印象とは異なるご家庭のご様子に驚くと同時に本当に仲の良い素敵なご家族なのだなどいつも思っておりました。

普段はとても優しい先生でしたが、研究に関しては厳しい姿勢を貫かれていたように思います。ご自身が体を気遣いながら研究を続けられる中で、どうしてもっと真摯な態度で臨まないのかともどかしい思いでおられたのではないのでしょうか。

電車の中でお会いすることももうないのかと思うと寂しい限りです。高橋先生、今までありがとうございました。(2003年度卒業)

高橋先生に教わった10年あまり

松井幸一

高橋先生には学部生の頃から博士課程を修了するまでとても長く指導していただきました。学部生の頃の私は真面目な学生とは言いがたく、卒業するまで単位の取得で常にご心配をおかけしていました。今振り返るとよく大学院進学を認めてくださったと自分でも驚きます。大学院に進学後は心機一転して研究の基本を一から教えていただき、博士課程に進むと琉球という同じ地域を研究対象にすることもあり何度も一緒に沖縄へ調査に行きました。先生との調査は日中ひたすら外を歩き回りながら調査し、夜には近くの居酒屋で夕食をとりつつちょっと一杯飲むというのが定番でした。夕食の後にさらに別の店で飲むこともしばしばありましたが、ビールは飲み過ぎると家族に怒られると言いながらも「トマトジュースで割っているから」とレッドアイを飲む姿は普段見られない先生のお茶目な一面でした。また先生はとても気さ

くで現地の方々とすぐに打ち解けいつの間にか一緒に飲んでいることもたびたびあり、その縁で思いがけず研究に繋がる興味深い話を聞くことができたり、地元の人しか知らない場所を教えていただいたりすることも多々ありました。先生はご自身のことをよく「人たらし」が上手いと仰っていましたが、調査方法とともにいかに地元の方たちと親交を深めるのが大事かという調査の姿勢についても教えてくださっていたのだと思います。

調査では二人そろって車で移動することが多く、車中では雑談に加えて様々な個人的な相談もさせていただきました。そのような時にはご自身の体験談を踏まえながら親身に話を聞いてくださり、様々な助言をしてくださいました。そのおかげもあり私は現在、大学で研究員として働いています。私自身こんなに長く大学に残るとは思いもしませんでした。これも学部、大学院と厳しくも温かい指導を続けていただいた先生のおかげです。先生の公私にわたるご指導にあらためて深く感謝するとともに心からご冥福をお祈りいたします。(2003年度卒業)

厳しくも優しい眼差し

松瀬真理子 (旧姓 谷)

私が高橋先生に初めてご指導いただいたのは、学部2年生の課題発表の場でした。天文と地理を結びつけた研究をしたいという私の拙い発表に、いくつかの指摘をされた上で先生は大きく頷かれ、非常に珍しい研究なのでこのまま進めていくようにとおっしゃいました。このときに私は研究者の道を強く意識したのだと思います。

その後、希望どおり進学しましたが、私はもともと体が弱く、体調を崩してばかりで精神的にも非常に弱っており、研究の道を断念し、退学する旨を先生にお伝えしなければなりません。その時先生は、私のご期待にそえなかったにも関わらず、「気づいてやれずすまなかった。しんどかったね」とおっしゃって、ご自分の体調のことやご家族のことを長い時間をとって涙ながらに話して下さいました。

研究者としての成長のために厳しくご指摘いただくこともありましたが、私にとってはとても優しい父のような存在でした。そんな先生がこんなに早く逝かれてしまったことは残念でなりません。高橋先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。(2005年度卒業)

先生を憶う

吉田雄介

高橋誠一先生に接して僕が受けた薫染については何年も前に千里地理通信に書かせて頂いたことがある。それでおしまいと思っていたのだが、筆硯を改めて先生の追

慕を書く日がこようとは、あ、あ。

博士後期課程から関大の門をくぐった僕は、先生の講義を受ける機会を逸し、先生の学問の真骨頂を知る者ではない。むろん学びとは講義に限定されるようなものではなく、地理学教室関連の行事その他で、先生から地理学の何たるかを直接・間接に教えられた。これで印象が深いのは、正に虚を衝かれるような先生からの問いかけが少なくなかったからだ(こうしたエピソードの詳細は、以前の千里地理通信で触れたのでここでは省く)。地理学をめぐるそうした問いかけに真摯に答えることができたかどうか。僕はいま、学問の大成しないのを地下の先生に対して恥じる者である。(2005年学位取得)

感謝と宿題

上野 裕

社会人学生として3年余り地理学教室で勉強させていただきました。高橋先生には折に触れ「あせらず頑張れ」というお声掛けをいただき、うれしくもあり元気の源にもなりました。大学院研究会では、先を見据えた研究の重要性をご指導いただきました。当時、調査していた舞鶴の都市計画について「それは秀吉型のプラン」と重なるのかというご教示をいただき、はっとした思いが強く残っております。今でも曖昧になっている宿題ですが、何とか小論にまとめ先生にご報告しなければと思っております。地理の面白さや教師の魅力を改めて学ばせていただき感謝申し上げます。先生、本当にありがとうございます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(2011年学位取得)

時に厳しく、時に優しく。

舟越寿尚

高橋誠一先生と初めてお会いしたのは2004年春のことでした。この年に関西大学へ3年次編入学した私は、入学後に初めて受けた授業、地理学実習での先生のピリピリした雰囲気には圧倒されました。二回目の授業は発表、私のテーマは『滋賀県湖東の条里制』。当事無知だった私は、先生のご専門の分野であることも知らず、辛辣なご指摘に、唯々『厳しい先生』という印象を抱いてしまいました。

しかしながら、地理学教室で時間をご一緒させていただくうち、度々『優しい先生』の一面も拝見することとなりました。宴席ではお酒の弱い私に「今日は飲めるんか？」と気遣いながらお酌して下さったこと、「今日もおしゃれやなあ。」と服装をほめて下さったこと、追憶されます。与論島でご披露された美しい歌声も…。時に厳しく、時に優しく。それでも、年々、丸くなられ

る先生に、寂しさを感じていたことも事実です。高橋誠一先生、10年間、本当にありがとうございました。

(博士課程後期課程)

高橋先生との思い出

齋藤 鮎子

高橋先生とお会いしたのは2006年の4月、私が2回生になりちょうど地理学教室に所属した年の新歓コンパの時。コンパの終了と同時に、私を捕まえて「これから新生全員でカラオケな！みんな呼んできてくれるかな」と私を幹事に任命された。先生はカラオケで「三線の花」を披露し、私たち新生はあの小さな体からどうしてこんな迫力がある歌声が出るのか不思議で、そしてあまりの上手さに度肝を抜いた。それを見た先生は「僕は合唱部やったから」と照れくさそうに微笑んだ顔は今でもはっきりと覚えている。

私が大学院進学と同時にゴルフを始めたことをどこからか聞きつけた先生は、ゴルフのノウハウを語ってくれた。その時私は、高橋先生はなんて器用な人だ、ビリヤードもできてゴルフまでできるのかと感服した。

2013年ハノイ理科大学に一年間の留学をする前に、高橋先生は「齋藤さんが帰ってきたら、飲みにとカラオケ行こう、ゴルフも」と言ってくれた。それが叶わないのが非常に残念です。D面接入試の時、高橋先生がつぶやいていた「齋藤さん、ひょっとすると君、立派な研究者になるんじゃないかなーと僕は思ってたねん」という言葉が現在の辛いベトナム生活の励みになっています。高橋先生と過ごせた時間に感謝しております。高橋先生のご冥福をお祈りいたします。(博士課程後期課程)

追悼文

張 旭

2014年2月12日に高橋誠一先生のご逝去を知り、驚きとともに深い悲しみで一杯となりました。

去年の最後のゼミで先生にお目にかかった時は、たいへんお顔色もよく、もう大丈夫だと先生みずからおっしゃっていたのに、未だに信じられない思いです。

思えば先生との初対面は、関西大学大学院入試の面接試験でした。無事に合格し、先生のもとで親しくご指導を賜り、時には親以上に親身にご叱正をいただきました。これからご恩返しというときに先生を失ったことは、本当に惜しく残念です。

今後は、先生からいただいた教訓をいかして勉学を続けていくことがご恩に報いる道と思って頑張る覚悟でいます。私たちは、先生の下で学んだ至福の時を思い起こせば、辛い試練にあっても生きていける自信がもてるよ

うな気がしています。先生、どうか安らかにお眠り下さい。ただただ先生の思い出にひたりながらお別れのご挨拶といたします。(博士課程後期課程)

痛恨の極みです

張 立宇

昨年の夏、高橋先生が急に入院され、秋に一旦復帰されたものの再び病魔と闘う日々をおくってこられました。先生が新学期に退院して、復帰されることを確信していましたが、今年の二月、突然訃報が届きました。まさに青天の霹靂のような訃報に、悲しみというより、全然信じられない、または信じたくないという気持ちでいっぱいでした。

告別式当日には、先生のご逝去を実感しました。この式場を訪れるのは二回目です。前回は高橋先生のお母様の告別式でした。申し訳ありませんが、今回の気持ちとは全然違いました。在学期間に、恩師の逝去を体験する気持ちは一言で言えません。告別式で、先生の奥様と千田先生のお話を聴きながら、先生の生前のことを次々と思い出して、涙が止まらなくなりました。高橋先生は2010年から、指導教員として私の研究についていろいろ指導していただきました。また、温厚でご親切な先生は我々留学生の生活にも関心を持って、いつも励ましていただきました。先生にご恩をお返しすることができなくて、痛恨の極みであります。先生のご冥福を心よりお祈りします。(博士課程後期課程)

偉大な高橋誠一先生

下田省吾

高橋先生がお亡くなりになり4カ月が経ちました。訃報の知らせを聞いたのはアルバイト先からの帰り道で、泣きながら自転車を漕いでいたのを覚えています。お亡くなりになられたことが受け入れられず、もう会えないのかと思うと寂しくてたまりませんでした。

私は3回生で高橋ゼミに所属しましたが、4月の新歓コンパで先生の言われた言葉が嬉しくて忘れられませんが「一緒にビールを飲みながら、「下田みたいなやつがゼミに欲しかったんや」との先生の一言は、私を必要としてくださっているのがわかって、嬉しかったのです。ゼミでの指導は時には優しく時には厳しく、発表に対しても様々な助言を頂きました。教員志望の私は、将来高橋先生のように色々な人から慕われる素晴らしい先生になりたいと思っています。先生の指導を受けることができ、本当によかったです。高橋先生、どうか天国でゆっくりお休みください。ありがとうございました。

(学部4回生)

プエルタ・オサリオ便り

セビーリャ・オレンジ街路樹のもとで

野間 晴雄

スペインではクリスマスとそのあとの数日は日本の新年のような特別な日です。静寂のあとは、歳末・新年大バーゲンの始まり。値下げの値札がかけられた店は、地元の人、それに避寒にきたヨーロッパの観光客でたいへんな賑わいでした。スペインは統計数字の上ではフランスに次ぐ世界第二の観光大国です。世界遺産も42(世界第3位)あります。セビーリャもカテドラル(大聖堂)、アルカサル、インディアス古文書館が1987年に世界文化遺産に登録されました。アルカサルとはスペイン語で城・宮殿ですが、その源はアラビア語の宮殿・砦を意味する al qasr です。セビーリャのアルカサルは14世紀にカスティーリャ王ペドロ1世の命により、イスラム時代の宮殿跡地に建てられ、残留イスラム教徒を意味するムデハルの様式とキリスト教の建築様式が融合したスタイルです。見上げる者を圧倒する1519年完成の大聖堂もモスクの跡地に建っており、隣接するヒラルダの塔はモスクの尖塔と鐘楼の融合です。敢えて同じ場所=聖地に教会を建てるキリスト教の残虐性は、店の天井から吊したハモン(スペインの生ハム)を見せつけられるイスラム教徒の心情にも相通じるものがあります。

荒涼たるメセタの高原に屹立するマドリッドがカスティーリャ王国の首都になっても、農業生産や遠距離交易は南部のアンダルシアに頼りきっていました。オリーブ世界一、海岸の湿地・ラグーンではアラブ人が持ち込んだ米が稔ります。オレンジにいたっては流域平野に大規模に栽培されるだけでなく、アルカサルの中庭や各所の庭園、家の中庭パティオ、それに街路樹もみんなオレンジです。あれだけのみかんを商品にすればと気もするのですが、道行く人は見向きもしません。試しに1つ食べてみました。夏みかんの味で酸味は強かったですが(ママレードやリキュールにはする)、少し改良すれば食べられる代物でした。落ちたオレンジは街路樹の下で腐るのを待つだけです。犬の糞も飼い主は持ち帰らず、バルやレストランで客は食べ残を床やテラスに落とし放題。それが店の繁盛のバロメーターです。それでも街路が比較的美し

いのは、毎日バルの人影が退いた0時前に専用車がごみを回収し、早朝にはローラーブラシをつけた清掃車が回るからです。

セビーリャで困ったのが生活時間。昼の食事は14時から16時ぐらいまで、夜は20時開店で23時閉店という店がほとんどです。本来、夏は40度を超える暑さの地中海の農耕生活リズムがスペイン全土で適用されています。シエスタという昼寝タイムも含んでいます。わがアパートの世話をしてくれる32歳独身のアルベルト君、車で30分かけて母親の手料理を食べに帰ります。食事時間の前はどの店も原則飲み物しか出しません。つまむタパスがあればいい方です。スペインではビールは水やソフトドリンク・コーヒーと同じ範疇で、ワインやウイスキーのアルコール飲料とは峻別され、ボトルの水より安い場合もままあります。やおら1時半頃に出かけてまずビールを1杯、それからビールかワイン片手に料理を1~2品味わい、エスプレッソで締める毎日です。ここで、飲むのと飲みながら食べるのは“場”が厳然と区別されているのに気づきました。店の中でカウンターとか立って飲んでいる人も、食べる場合はテーブル席に移り、ウェイターはテーブルクロスを必ず敷き替えます。庶民的な店では紙の場合も多いのですが、生身のテーブルに料理が出されることはありません。

わがアパートのある地名はプエルタ・オサリオ。プエルタは門で、オサリオは納骨堂、街を囲む市壁の城門跡で辛うじて内側の周縁部です。かつてはグアダルキビル川べりからカテドラルのあるヌエバ広場のセントロ(中心)を通る路面電車の終点でした。Ave(スペイン新幹線)が発着する斬新なセビーリャ・サンタフスタ駅までは歩いて10分、2007年に開通したトラムまでも15分。乗り物少年の夢が蘇り、市内バス路線図片手に複雑きわまりない街を歩き、そして乗り回っています。

※70号と71号の2回に渡ってお届けいたしました。

(本学教授・2013年度関西大学在外研究員)

2014年度
新入会員より

学園生

池田航大
大阪府堺市出身で、現在は豊中市に住んでいます。大学まで自転車通いで25分通っています。野球が好きで、特にプロ野球は一軍にいるほぼ全選手の名前を覚えています。最近の趣味はキャッチボールです。よろしくお願ひします。

伊佐嘉真

京都市の山奥に住んでいます。この専修に入るとは思っていませんでしたが、専修選択の際に少しもたついたところに救いの手を差し伸べてくれたのがこの専修でした。しっかり勉強してしっかり遊びたいと思います。

大西紗季

兵庫県姫路市の北部出身です。ト田舎です。下宿を初めて1年たちますが、大阪の都会さに感動する日々を送っています。旅行も好きです。よろしくお願ひします。

小川隼也

はじめまして。三重県鈴鹿市出身で現在は千里山で下宿しています。地理は中学までの知識しかなく、地理に興味はありませんでしたが、学びの原を受けて興味を持ちました。よろしくお願ひします。

木下雄太

石川県野々市市生まれ、福井県越前市育ちです。実は理系です。親の影響で大学で地理を学びたいと思っていました。ドライブ好きです。大学時代に日本一周してみたいです。田舎出身で大阪で生活していることをこんなに楽しんでいる自分ですが、よろしくお願ひします。

鹿児島出身です。歴史や旅行が好きです。ほかにも色々な趣味を持っているので、地理で様々なことを学びたいです。よろしくお願いします。

佐藤寛哲

大阪府枚方市の出身です。高校で指定校推薦で文学部に入り、スクーリングから地理学専修を選びました。スポーツが好きです。高校まではずっと野球をしていたので、特に野球が好きです。

力石亜海

神奈川県温泉地、湯河原町出身です。今は大阪市内に住んでいます。高校で学んだ地理が楽しくて、地理学専修に進もうと思いました。食べることが好きです!! よろしくお願いします。

戸高幸星

兵庫県神戸市垂水区出身です(香川真司と同じ)。旅行が好きです。ボランティアサークルに入っています。顔と毛の深さは、誰にも負けません。よろしくお願いします。

西田元氣

奈良県生駒市出身です。休みの日はラーメンを食べたり、徒然なるままに関西の街を歩いたりしています。旅行が大好きで、また旅先のことでも詳しく調べることも好きだったので、地理学専修に入りました。よろしくお願いします。

松尾純斗

お疲れ様です。京都市出身です。専修難民になっており、その時、フィーリングで地理学専修に進むことになりました。将来は観光関係の仕事に就きたいと考えているようになっていきます。好きな食べ物は半熟玉子です。スポーツは野球とサッカーの二刀流でお願いします。

あいにくの空模様でのスタートでした。今回は10月に行く実習と同じ、鳥取市内をメインにした巡検です。心配していた天気も高速道路を走るうちに回復、大原宿では日差しを気にするほどでした。古い町並みと大原断層を眺め、いよいよ鳥取市内に入ります。おなかもすいて、はやバスの中が静かになってきたころ、「あ、砂丘!」、誰かの声で皆が窓へ首を伸ばします。すっかり晴れた青い空に、砂丘の色がくっきりと浮かんでいました。左手に防砂の松林と竹柵、右手には砂地を利用したらっきょう畑が広がっています。昼食は砂丘にて。しじみごはん定食が人気、梨ソフトクリームは賛否両論でした。午後は浦富海岸で洞窟探検と記念撮影、イオン鳥取北店を通り過ぎ、賀露港周辺を歩いた後、鳥取城跡(久松公園)に入ります。久松山のふもとに広がる鳥取市内を一望できました。これからの私たちのフィールドを眺め、不安と、身の引き締まる思いがしました。長いバス旅は終盤、17時ごろ、宿舎白兎会館に向かいます。2回生とはここで解散です。今回は1回生の有志も一名宿泊しました。徐々に出てくる豪華な夕

食でおなかいっぱいになり、温泉とマッサージチェアを楽しみました。翌日、午前中に鳥取市街地を歩きます。城下町の名残がある町割りに、それぞれ商店街が通っていますが、目立つのはシャッターと高齢者です。やはりというべきか、鳥取の過疎と高齢化のイメージが確かなものになりました。行政もいろいろと対策を講じているようですが、課題は多そうです。私たちの実習調査で、果たして何がわかるのでしょうか。しかし、少なくとも今回の下調べによって、防砂の取り組み、ニュータウンの存在、農業・漁業の魅力、大火や洪水の歴史、商店街の課題など、今まで見ていなかったものに目を向け、さらなる興味につなげることができました。10月、さらに発展した調査ができるように励みたいと思います。

午後、市役所前で巡検は終了、現地解散となりました。後は自由行動です。鳥取砂丘に行く人、電車で帰る人、バスを待つ人…。空が急に曇りだし、降り始めました。巡検が終わるのを待っていたようでした。雨男・雨女はどこにいたのでしょうか。(本学3回生)



今後の研究会行事

関西大学地理学研究会事務局



1. 秋の日帰り巡検のご案内

毎年研究会の恒例行事となっています日帰り巡検を下記の要領にて実施いたします。多くの卒業生、院生、学生の参加をお待ちしています。

テーマ：奈良盆地南縁に見られる天皇制嚆矢及び復古遺跡と地形

日時：平成26年10月26日(日) 12時00分～17時30分(予定) 雨天決行

集合：近鉄大和八木駅 南口付近(11時50分)

http://www.kintetsu.co.jp/station/station_info/station02030.html

コース：近鉄大和八木駅周辺巡検(都市化をテーマに) —<タクシーで移動>—藤原京資料室(奈良県橿原市縄手町178-1) —藤原京(藤原宮)旧跡と大和三山—飛鳥川河川争奪—神武天皇陵—畝傍山麓—橿原神宮(解散17時30分ごろ予定。最寄駅は近鉄橿原神宮前駅です。)

費用：300円程度(タクシー代、大和八木駅から藤原京資料室：奈良県橿原市縄手町178-1まではタクシーで相乗りにて移動します。)

その他：あらかじめ昼食を取ってお集まりください。

連絡先：参加希望の方は10月23日(木曜日)までにM1酒井までご連絡ください。

e-mail: k544639@kansai-u.ac.jp 携帯: 090-7557-3073

2. 地理学研究会第101回例会(研究例会)開催のご案内

下記の要領にて、恒例の地理学研究会研究例会を実施します。研究発表会に先立って、実習調査(鳥取県鳥取市)報告もいたします。また、懇親会も開催しますので、万障お繰り合わせの上、多数ご出席ください。

日時：平成26年12月13日(土) 15時00分開始 18時00分より懇親会開始予定

会場：関西大学 第1学舎A号館3階 A301教室(懇親会A号館1階食堂)

講演：張 立宇(関西大学大学院・博士課程後期課程)「北京の都城構造における中軸線の歴史地理的考察」

：岡久友香(伊丹市立荒巻中学校教諭)「これから社会に出るみなさんへ」

：野間晴雄(関西大学)「環大西洋の時空を漫遊して—在外研究で得たこと—」

連絡先：懇親会に参加ご希望の方は12月10日(水)までにM1酒井までご連絡ください。

e-mail: k544639@kansai-u.ac.jp 携帯: 090-7557-3073

卒業論文・修士論文一覧 (2014年3月卒業・修了生)

<卒業論文>

- 青竹 美晶 札幌観光と札幌の地域の料理
 石崎 遥 中小小売業者による青果物調達・販売戦略の比較 ー大阪府藤井寺市を中心にー
 岡部なつみ 茨木市中条小学校遺跡ボーリング資・試料の分析による堆積環境の復元
 勝部 友恵 松江城下町における身分別居住地区の風情 ー現在の町並みからの推測ー
 河村 恭行 物資・文化を運んだ鯖街道の構造とその価値
 後藤 修平 近代日本の鉄道貨物輸送 ー北陸線と沿線地域の貨物輸送体系に着目してー
 後藤 達弥 阪神・淡路大震災と東日本大震災の比較
 木場 隆弘 大隅半島中部(鹿屋市域)のタノカンサァ像と田の分布的關係
 篠崎 淳平 大都市における人口の回復 ー大阪市を事例としてー
 柴原 悠司 長浜・彦根の中心市街地活性化に関する比較研究
 中村 圭佑 由良川流域における水害対策の現状と課題 ー3段階の水害対応を踏まえてー
 福岡 明恵 日本におけるキリスト教の受容と信仰 ーキリシタン伝播とその影響ー
 細野 佑樹 キャラクター信仰と、それに伴う地域振興の実際 ー『あの日見た花の名前を僕たちはまだ知らない。』で舞台となった埼玉県秩父市の事例をもとにー
 今林 晃 ロサンゼルスカウンティにおける人種・民族別住み分けとヒスパニック系人口の増加に伴う問題

<修士論文>

- 所 夏弥 千里ニュータウンの変容と再生化事業に関する研究 ー住宅事業の観点からー
 牛 鋳 中国山東省寿光市のフードシステムの現状に関する研究
 ー中国の食安全を考察する手懸りとしてー

教室だより

■学生数

平成25年度当教室新入生は、新2回生15名、修士課程1年生2名であった。4月24日(木)には新入生歓迎コンパをフランススペースで開催した。学部生59名、大学院生11名の総計70名となった。

■春の一泊巡検

恒例の春の一泊巡検は、6月7日(土)、8日(日)に下記の要領で開催された。テーマ：鳥取砂丘地・鳥取市街地の自然と人文。参加学生：地理学地域環境学実習を履修する3回生、それに2回生、修士課程1年生ほか。集合場所と時間：8時20分集合、新大阪駅。コースの概略：26日 大原宿、鳥取新都市・若葉台、砂丘センター(昼食)、らっきょう畑・梨園、浦富海岸、

鳥取港(賀露)、鳥取城跡(久松公園)、白兔会館(一次解散)、JR大阪駅付近(二次解散)27日 徒歩にて鳥取市中心市街地巡検、若桜街道、川端通り、鳥取市役所、現地解散。引率：実習担当者(木庭・伊東)。参加者数34名、うち日帰りは15名であった。

■M・D中間発表会

7月19日(土)13時30分～17時10分まで地理学・地域環境学教室にて行われた。発表者は、家村一平、井上拓大、王 大斌、方 立、林 穎、の5名であった。

■教員の海外出張 2014年4月～2014年8月

伊東 理：2014年8月13日～8月28日、イギリス、イギリスの中心地の再生に関する調査。

森元一登

大阪府高石市出身の森元一登です。元々、他の専修を希望していましたが、抽選にもれて投げやりな気持ちでこの地理学にきました。まあ、でも今は楽しくやっています。よろしくお願ひします。

森本 翔

はじめまして。子午線の街からはるばる通っています森本です。ラクロスやっています。趣味は歩くことで歩いて色んな所に行こうと企んでいます。よろしくお願ひします。

山口 翼

兵庫県宝塚市出身です。地理学から世界を見た다고考えてます。

山下智美

大阪府河内長野市出身です。夜は虫たちの大合唱がうるさくて眠れないこともある程の田舎で、そんな場所であつたので自然が大好き、散歩が趣味ののんびりマイペース人間です。よろしくお願ひ致します。

大学院

博士課程前期課程

王 遠航

2年前の4月に日本にやってきました。今年やっと関西大学に進学することができました。日本と中国の文化が繋がっている、すぐ新しい生活に慣れてきて、今も楽しみながら暮らしています。よろしくお願ひします。

酒井礼央

地理学に魅せられて大学院に進学するに至りました。歴史ある関西大学で学べることを嬉しく思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

「高橋誠一先生を偲ぶ会」のご案内

高橋誠一先生の一周忌に合わせて、関西大学・滋賀大学の教員・卒業生や先生の知人・友人の皆さまに声をおかけして以下のように「高橋誠一先生を偲ぶ会」を開催いたします。それにあわせて、思い出文集の刊行も予定しています。会費等も含めて詳しくは10月下旬に卒業生の方にご案内を郵送し、地理学教室のホームページでもお知らせする予定です。ご参加をお待ちしております。

1. 日時

2015(平成27)年2月14日(土) 14時30分～20時

2. 会場

大阪ガーデンパレス(私学共済会館)2F 楓松の間

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-3-35 電話 06-6396-6211

JR新大阪駅から徒歩10分、新大阪駅からの無料送迎バスが毎時05分、20分、35分、55分にです。

3. プログラム

14時 受付開始

14時30分～17時30分 第1部 偲ぶ会

高橋先生の経歴・研究業績紹介とそれに関わる講演、思い出などのスピーチ

18時～20時 第2部 偲ぶ夕べ

会食と各方面からのスピーチ、スライド等の上映など

随想

考古地理学と 2人の高橋先生

水田 義一

私は和歌山大学を2010年に和歌山大学を退職して、現在は和歌山県立紀伊風土記の丘で、館長（囑託）として勤めています。紀伊風土記の丘は、JR和歌山駅東口からバスで15分の場所にある特別史跡岩橋千塚古墳群を史跡公園として整備したものです。その陳列施設として置かれた資料館では、史跡公園の整備、古墳および出土物の調査・展示に加えて、県内の民俗品、4棟の古民家の展示を行っています。史跡公園の資料館にいと考古学に造詣の深かった2人の高橋氏を思わずにはおれません。

私は京都大学で人文地理学を学び、卒業後は、京都大学・和歌山大学で歴史地理学を主に研究してきました。大学を退職した年にある縁で紀伊風土記の丘という考古学の研究・展示の場に席を置くことになりました。思いかえすと小生と考古学との出会いは、恩師藤岡謙二郎先生から「考古地理学」という言葉を聞いたことに始まるように思えます。当初は、先史時代の地理的環境を研究する程度に思っていたのですが、後に先生が『講座 考古地理学』（学生社刊）を編集されたときには、考古地理学とは、地理的環境を現在の環境や地割・遺物を分析して研究するという研究方法論も含む学問と知りました。

文学部で地理学を専攻したとき、考古学に造詣の深い2人の学生に出会いました。2人ともどうして地理学に籍を置くのか不思議に思うほど考古学の知識に富むとともに、考古学を愛しているように感じました。1人は私の1年先輩であった高橋美久二さん、もう1人は1年後輩であった高橋誠一氏です。驚いたのは、2人の卒業論文の内容が実にレベルの高い物であったことです。高橋美久二さんは、古代山陽道の復原してその駅路を比定したものでした。古代山陽道のルート上で、古代の瓦が出土して寺院跡と想定されていた遺跡を駅家と断定されたものでした。藤岡先生が、その論文の内容を絶賛されていたのを今も覚えています。高橋美久二さんはその後大学院では考古学に進まれた。この論文は考古学関係の雑誌に載せられ、その後の研究を加えて、1995年には『古代交通の考古地理』として刊行された。京都府の教育委員会、滋賀県立大学と勤められ、2006年に退官後数ヶ月で亡くなられた。小生の先生や先輩をすでに数多く見送ってきたが、はじめて同世代の方が亡くなったので当時深い衝撃を受けました。

高橋誠一氏の卒業論文は「古代山城」をテーマにしたものでした。7世紀に朝鮮半島との軍事的な緊張関係の中で、北九州から瀬戸内、大阪の見晴らしのよい山頂に朝鮮式の山城が築造され、現地では「神籠石」と呼ばれ

ていた。しかし古代山城が記録には載せられていないこともあり、当時はまだ、外敵に備えた軍事的な城郭という説と、「神籠石」と呼ばれる宗教的な施設という論争のあったテーマを、現地踏査を重ねて軍事施設と結論付けた明晰な内容の論文でした。それから10年後の1978年頃、和歌山大学の地理学の実習旅行で韓国を回ったとき、高橋氏もそれに参加された。彼の話術で楽しい実習旅行となり、学生にも印象深い実習となった。とくにソウルで見学した南漢山城は、山頂に今も石垣・農地・家屋を残した朝鮮式山城の原型を見る思いがした。

卒論に続く2年後の修士論文では「古代手工業」ということで大阪府須恵村を中心に古代窯業の産地の分析をされた。内容は理解できなかったが、須恵器の年代区分、産地分析のための土壌分析等多岐に及ぶ資料を整理して、窯業産地の研究をされた。修士論文を仕上げるために、膨大な資料整理をまず行ったということはよく理解できた。その後考古学界では、須恵村の須恵器が精緻に編年されて、古墳時代の遺跡の年代確定の基準になっていることを知った。そしてまた、高橋氏の修士論文はそのさなかに書かれた大変な労作であることを知るところとなった。

高橋氏は考古地理学という研究方法をもとに一貫して、都城、村落などの形態の分析から景観を研究されてきていた。最後の著作『日本と琉球の歴史景観と地理思想』では、物と形の分析にこだわった考古地理学から、地域の文化まで対象とする新しい研究の境地に達せられたと思っている。

最後に付け加えておきたいのは、高橋氏は人の隠れた才能を見出すことが実に上手であった。40代の頃までは、地理学会に出席して、あるいは会合で、全国にこんな優れた人がいたと、分野を問わずに友人になっていた。そのうちの数人はその紹介で今も親しくしてもらっている。また大学では、こんな才能をもった学生がいると何度も教えてもらったことがある。学生の才能を見出すのは優れた教育者の条件であろう。

同世代の者として、先に逝かれたのが残念で、氏の当意即妙の話を聞けないのは淋しい。

（本学非常勤講師、和歌山大学名誉教授・現和歌山県立紀伊風土記の丘館長）

千里地理通信 第71号

2014年9月30日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内
編集担当：伊東 理 舟越寿尚 酒井礼央

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

HP：http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

e-mail：k054379@kansai-u.ac.jp

郵便振替：大阪00970-4-81149